

大礼御建物一件



大正天皇の「即位の礼」は、1915（大正4）年11月10日、京都御所において挙行されました。

今回紹介する資料は、この「大礼」行事等のために建設・調達された建物・調度品などの「行く末」に関するもので、京都学・歴史館オープンに伴い新たに京都府行政文書として整理し、公開するものです。

表紙には「[大正四年 大礼御建物一件](#)」と書かれており、綴じられている文書の大半は大礼後の建造物や調度品などの「下賜」を京都府や国に願い出るものです。多くは大正5年になってから提出されており、申請者は府内各自治体、各団体、寺社、さらには学校など多岐に渡っています。

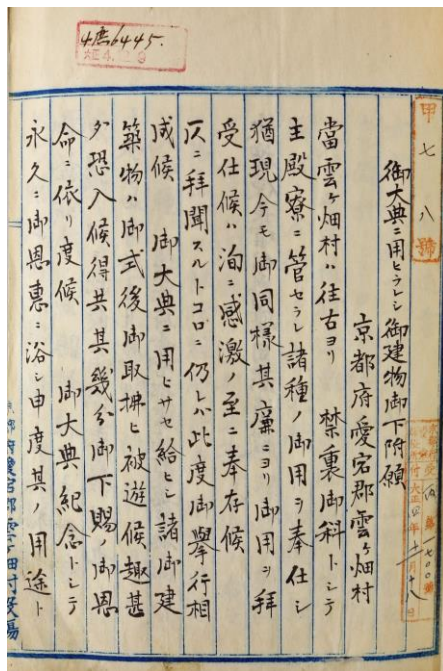
当館所蔵の府庁文書の中には、大正大礼に関する資料が他にも見られますが、「[大正大礼京都府記事原稿](#)」（大 04-0032-002）という簿冊（注）には、「[御苑内其他御建物下賜](#)」として次のような文書が綴じられています。

「大礼用トシテ建設セラレタル御苑内及二条離宮ニ於ケル各種ノ建造物八大小数十棟ノ多キアリ…（中略）大礼ニ関係ヲ有シ、

好古ノ記念物タルニヨリ、宮内省宛又八大礼使長官宛或八本府知事宛ニ之ガ下賜ヲ出願スルモノ各方面ニ亘リテ頗ル多数ニ上リタリ。」

この「下賜」に関する勅令は大正5年1月21日付に公布されますが、「大正四年 大礼御建物一件」には、この前後を含め府内各地から出された多くの申請書が綴じられており、そこには「下賜」を願う理由や使途、さらには申請団体の由緒・概要などが含まれている場合もあります。

およそ50年ぶりとなる天皇権威の回帰に沸く京都でしたが、その熱気が府内全域に広く伝わっていたことがわかる資料です。



京都府愛宕郡雲ヶ畑村からの
「御下附願」

(注) この他、数点の「大正大礼京都府記事原稿」という簿冊があり、これをもとに大正6年3月、『[大正大礼京都府記事 庶務之部 上](#)』及び『[同 庶務之部 下](#)』が刊行されています。

(2018年2月19日公開)